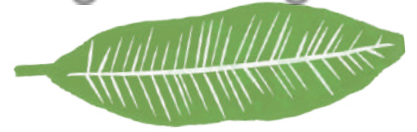


# “ごほうび”の工程 織り



## 芭蕉系のご機嫌取りつつ機を織る

長期間の準備を経て、いよいよ機織りへ！待ちに待った工程ですが、乾燥すると切れやすい芭蕉系で布を織るのは至難の業。梅雨など湿度の高い時季を選んだり、霧吹きで糸を湿らせながら織り進めます。



## ユニークな絣の世界



ハナアーシ

漢字にすると「<sup>はな</sup>花<sup>あし</sup>合」。花柄を意味する喜如嘉の方言という説も。経緯絣



ジンダマバンジョー

商売繁盛を願う“<sup>ジン</sup>銭<sup>ダマ</sup>玉”柄と、大工の定規がモチーフの柄を組み合わせた経緯絣



スティチンファア

ソテツの葉をイメージした経緯絣の柄。上部の短い線はソテツの実を表す

※「喜如嘉の芭蕉布」で織られることが多い絣柄です

## 仕上げ作業も手間かけて！ 洗濯



### 芭蕉布の誕生まで残り10工程以上！

織りあがった芭蕉布は精練・仕上げ作業である「洗濯」へ。まずは水洗いして汚れを落とします。さらに木灰汁で煮たら、アルカリ性に傾いた布を、お粥を発酵させてつくるユナジ液に浸しましょう。ユナジ液で中和させたら軽く陰干しに。その後、洗って縮んだ布を既定の幅や長さに戻すため、「ちまんき※2」と呼ばれる手で引っ張る作業や、布の両端を持って数名で引き伸ばす「布引き」作業を行います。そして湯のみ茶碗で布をこすって風合いを向上させたら、アイロンをかけて出来上がり！お疲れ様でした。

1. お粥や米粉を発酵させたユナジ液
  2. 「ちまんき※2」作業では縮んだ布の幅を出すため、手で斜めに引きのばす
  3. 息を合わせて行う「布引き」。長尺の布は3人がかりの作業に
  4. 茶碗でこすって芋績み(→P7)でできた糸の結び目を目立たないようにする
- ※2「ちまんき」と言うことも



1



2



3



4

5 完成！



ジョートー  
やっさー！

ちやわん  
茶石宛でゴシゴシ!!